

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070100534
法人名	有限会社 シライシップ
事業所名	グループホーム シライシップ
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市門司区東新町1丁目5番13号 (電話) 093 - 371 - 9004

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年11月12日	評価確定日	平成21年12月21日

【情報提供票より】(平成21年10月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和14年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	10 人	常勤	3人, 非常勤 7人, 常勤換算 6.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000円(光熱費含む)	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(250,000円)	有りの場合 償却の有無	有(3年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,650円			

(4) 利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	6 名	男性	1 名	女性	5 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	0 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	77 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中村内科医院 / につた歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームシライシップは、JR門司駅から徒歩約10分の利便性が高い住宅地に位置し、近郊に医療機関・商店街が立地している。シライシップは、民家改造型の造りとなっており、豊かな智恵と工夫でリフォームを行い、入居者の住まいとして自分らしい暮らしができるように細やかな配慮がある空間となっている。管理者と職員は、定員が6人と少人数のため、家庭的な雰囲気と対応をモットーに日々のケアやサービス提供に努め、入居者はゆったりと穏やかに過ごしている。日々の暮らしの中では、管理者・職員の気配り・目配り・心配りにより、入居者が能力を最大限に発揮できるように、できることは自分で行っていただくように支援している。地域との関係も良好であり、毎日の商店街での買物では、商店街の方が積極的に入居者に声をかけていただくなど親しい関係を築いている。今後はシライシップ代表の協力のもと、管理者・職員と共に外出の機会を増やすなど、更なるサービスの質の向上を目指して取り組んでいるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の調査では、介護日誌や介護計画の検討・バイタルチェックの適正な頻度(多かったため)など、改善項目を真摯に受けとめ、積極的に改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ミーティングにおいて、管理者は職員に外部評価の意義を伝え理解を育んでいる。自己評価は管理者が中心となって日々のケアやサービスを振り返り作成し、その内容を更に職員間で話し合い、最終的に自己評価を行っている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、おおむね2ヶ月に1回開催している。会議は、家族の要望を把握する機会としてとらえ、また、自治会長・民生委員からは地域の情報を教えていただく機会として活かし、ホームの現状報告を行いながら、活発に意見交換を行っている。管理者は、会議で出された意見は、運営面に反映していくように積極的に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族の意見や要望は、基本的には面会時に管理者・職員がコミュニケーションを図り、何でも言うていただけるように取り組んでいる。また、運営推進会議の機会を活かし、家族の意見や要望を吸い上げていくように働きかけている。これまで、レクやリハの充実など意見をいただき検討を行い改善に結びつけている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	シライシップ代表が地元出身であるため、地域との関係が高く、ホーム立ち上げ時より、地域と良好な関係を築いている。ホームは町内会に加入し、5月の港祭りや8月の校区住民盆踊り大会・10月の戸ノ上神社秋祭りなど地元行事に積極的に参加している。毎月1回の柳町自治会清掃活動にも参加している。また、毎日、近郊の商店街に職員と入居者が一緒に買物に出かけ、商店街とは顔なじみの関係にある。今後は、更に地域に向けて認知症の相談や理解を育む活動の充実を期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	基本理念として、「気配り・目配り・心配り」をモットーとした3本の柱を掲げ、その中に地域密着型サービスとして、地域との触れ合いを大切に、地域に根ざしたホームを目指すことを定めている。また、理念では入居者の尊厳を守り、個別に役割・楽しみ・居場所を見出せるように支援していくことを打ち出し、独自の理念をつくりあげている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念の共有と実践に向けて、ホーム内の見やすい場所に掲示し、日々、申し送り時やミーティングの際に理念を唱和し、理念に基づいたケアやサービスが提供できるように取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	シライシップ代表が地元出身であるため、地域との関係性が高く、ホーム立ち上げ時より、地域と良好な関係を築いている。ホームは町内会に加入し、5月の港祭りや8月の校区住民盆踊り大会・10月の戸ノ上神社秋祭りなど、地元行事に積極的に参加している。また、毎月1回の柳町自治会清掃活動に参加している。毎日、近郊の商店街に入居者とともに買物に出かけ、商店街とは顔なじみの関係にある。今後は、更に地域に向けて認知症の相談や理解を育む活動の充実を期待したい。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	ミーティングにおいて、管理者は職員に外部評価の意義を伝え理解を育んでいる。自己評価は管理者が中心となって日々のケアやサービスを振り返り作成し、その内容を更に職員間で話し合い、最終的に自己評価を行っている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は、おおむね2ヶ月に1回開催している。会議は、家族の要望を把握する機会としてとらえ、また、自治会長・民生委員からは地域の情報を教えていただく機会として活かし、ホームの現状報告を行いながら、活発に意見交換を行っている。管理者は、会議で出された意見は、運営面に反映していくように積極的に取り組んでいる。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム シライシップ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	行政の各担当者との連携を図り、情報の共有や相談・助言を、サービスの向上につなげている。月1回、介護相談員の受け入れを行っている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	権利擁護に関する制度について、管理者が中心となって研修を受け、職員にミーティングで制度の理解を育んでいる。現在、制度を活用している方もおり、権利擁護・市民後見センター「らいと」の関係者との連携を行っている。今後は、研修記録として会議録などの充実が求められる。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	面会時に状況報告を行っている。また、遠方の方を含め、電話での連絡・報告を行っている。金銭管理は、面会の際や書類郵送にて確認を行っている。今後は、入居者の暮らしがわかる個別のアルバムなどを準備したいと考えている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	家族の意見や要望は、基本的には面会時に管理者・職員がコミュニケーションを図り、何でも言っていただけるように取り組んでいる。また、運営推進会議の機会を活かし、家族の意見や要望を吸い上げていくように働きかけている。これまで、レクレーションやリハビリの充実など、意見をいただき検討を行い改善に結びつけている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	グループホームは、入居者と職員のなじみの関係に配慮し、法人内の異動がないように職員の固定化を図っている。離職などの際には、法人内のマンパワーにより、応援の人材を確保し、入居者へのサポートができる体制を築いている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	募集・採用にあたっては、性別や年齢などによる排除は行っていない。管理者は、高齢者の思いに寄りそえる人・笑顔がある人・落ち着いた人を希望している。職員はスキルアップを目指して勤務できるように積極的に資格取得などバックアップしている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム シライシップ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	代表者・管理者の人権に対する意識は高く、研修会への積極的な参加や伝達研修など啓発活動を行っている。職員の伝達研修の記録の充実が期待される。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	職員は、勤務の一環として、研修に参加できるように取り組んでいる。職員が外部研修に参加する際には、研修費・交通費を会社が負担するなど積極的にバックアップしている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	他グループホームとの交流が課題となっている。今後は、地域包括支援センターなどへの協力を依頼し、門司区内、または近郊のホームとの連絡会などの開催を働きかけていきたいと考えている。		他グループホームとの交流を高めていきたいという意向があり、地域包括支援センターなどの協力を得て、連携へのリーダーシップの発揮に期待したい。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居者・家族の見学・体験によりコミュニケーションを図り、家族の最後の拠り所と心得て、希望や不安を受けとめ、納得後に入居していただくように努めている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	これまでの暮らしと同様にできることをやっていただけるように洗濯物取り込み～たたみ・季節の花壇づくりなどを行っていただき、職員が入居者から暮らしの習慣や知恵を学べるように取り組んでいる。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム シライシップ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	本人の意向にそったケアの実現に努めている。日々の入居者の言葉や表情など、職員の観察や気づきにより、更に深く入居者の思いや意向を掘り下げ、支援していくことが望まれる。		個別の1時間ごとの個人記録により、入居者の24時間の過ごし方がわかるように記録されている。今後はその個人記録の内容を検討し、入居者の喜びや楽しみ・苦痛などの状況も記録し、入居者の思いや意向を分析し、支援に結び付けていくことが望まれる。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の意向にそった介護計画を作成するようにしているが、今後は更に入居者の生きがいや楽しみも含めて、理念にそった介護計画の作成に期待したい。		入居者の方々の、日々の思いや意向を更に掘り下げていくことにより、介護計画作成へとつなげて欲しい。アセスメントの充実による、個別・具体的な介護計画作成に期待したい。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	毎月1回、介護計画の見直しを行っている。サービス実施におけるモニタリングの記録の工夫が求められ、今後に期待したい。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	入居者のかかりつけ医の受診同行など、入居者及び家族の意向に柔軟に対応できるように、管理者・職員が取り組んでいる。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	希望するかかりつけ医の受診を職員の同行により実現している。ホームとして健康管理のために2週間に1回、内科医の往診があり、歯科医の往診も取り組んでいる。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム シライシップ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	現在のところ、看取りの経験はないが、管理者・職員共に終末期に向けて、医療機関など、関係者と話し合いながら対応できる体制を築いていきたいと考えている。今後の取り組みに期待したい。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	管理者は、入居者への声かけに関して入居者の目線に合わせて穏やかに話すように指導している。調査当日も管理者・職員は入居者に合わせた声かけを行い、プライバシーに配慮した取り組みがある。記録など個人情報是一定の場所に保管・管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	おおよその1日の過ごし方はあるが、気候や入居者の状態により、その日の過ごし方を決定している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	毎日、職員が入居者に食べたい物を聞き、献立を決定し買物に出かけている。献立の工夫としては、魚・肉などバランスが取れた料理内容を提供するように努めている。入居者は、料理の下準備や下膳など、できることを手伝っていただいている。また、入居者一人ひとりに箸箱も準備している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本的には一日おきの入浴日の設定はあるが、希望や状況に応じて柔軟に対応している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム シライシップ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の楽しみとして、隣りの家へ遊びに行ったり、近所付き合いを楽しんでいただけるように支援している。また、季節感を感じていただけるように玄関入り口に花や野菜を植えるなど取り組んでいる。日々の暮らしの中では、入居者に食事の準備や洗濯物取り込み～たたみ・裁縫など、できることを行っているように支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	毎日の商店街の買物は、入居者と職員の日課となっている。今後は、法人代表の協力のもと、更に外出の機会を増やす意向があり、更なる充実に期待したい。		個別の外出の充実に向けて、法人代表の協力もあり、今後の取り組みに期待したい。また同法人では訪問介護事業にも取り組んでおり、その連携による車両の確保等、外出の機会の確保にも期待したい。
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	管理者・職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、見守りの徹底により、鍵を閉めないように取り組んでいる。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	平成21年5月に防災協会門司支部による「社員防災講座」のカリキュラムに参加し、防火・防災・普通救命の講習を受講している。年2回、避難訓練を実施し、地域・隣近所の協力・参加を得ている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	平成21年8月に糖尿病食・肝臓病食への理解を高める研修に参加し、バランスが取れた食事の提供や減塩を心がける食事のあり方を学び実践している。今後は、地域包括支援センターなどの協力を得て、管理栄養士を紹介してもらうなど、専門家にチェックしていただく機会を持つなど期待したい。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム シライシップ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間はキッチンが近く、アットホームにくつろげる空間の工夫がある。共用空間の隣りには、日光浴をしながらくつろげる空間があり、外の風景が見え居心地が良い場所となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は、民家改造のため、一定の広さを確保しながらも個性的な空間となっている。箆笥やテレビ・ソファなど、入居者がこれまでの暮らしの中で利用されていたものがそれぞれ持ち込まれ、入居者のこれまでの暮らしの継続を支援している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			